

第 173 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 4 年 8 月 10 日（水）14:30～15:30

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

・会議の概要

<報告事項>

- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。

<議題事項>

- ◇ 沖縄県対処方針の変更について議論した結果、変更することを決定した。

1 参加者

玉城 知事、池田 副知事、島袋 政策調整監、嘉数 知事公室長、
宮城 総務部長、武田 企画振興統括監、仲地 環境政策課長、大城 生活企画統括監、
糸数 保健医療部長、前門 農業振興統括監、松永 商工労働部長、
宮城 文化観光スポーツ部長、島袋 土木建築部長、金城 出納事務局参事、
半嶺 教育長、我那覇 病院事業局長、長濱 企画統括監、
県警 喜屋武 警備第二課長 宮里 感染対策統括監、
高山 政策参与、テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

欠席：照屋 副知事

2 報告事項

(1) 沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

- 総括情報部から警戒レベル判断指標等の状況について報告があった。
 - ✓ 判断指標の項目である人口 10 万人あたりの新規陽性者数は 2,000 人台、病床使用率は 80% 台、重症者用病床使用率は 40% 前後でひっ迫状況が続いている。
 - ✓ 前週比は 8/9 に 0.96 となっており、6/23 以来の 1 を下回る数値となっている。
 - ✓ 新規陽性者数は、8/3 に過去最多となる 6,200 名を超える人数だったが、本日 5,063 名と 1,200 名ほど減っている。
 - ✓ 入院中の患者はここ 2 週間 600 人台で推移しており、重症患者も十数名、宿泊施設療養者は 500 人台、自宅療養者は 30,000 人台でそれぞれ推移している。

療養者全体では 37,000 人前後で推移している。

- ✓ 県外在住者の新規陽性者数は、8/1 で 350 名と、増加が続いている。週別の県外住所新規陽性者数は、7月の二週目から 151 名、その後も 300~350 名となっている。新規陽性者数が増えていることに伴い、県外在住者の陽性者も増えている。
- ✓ 圏域別の状況については、病床使用率は県全体では 84.4%だが、沖縄本島に限ってみると 90%を超える状況。重症者用病床使用率は宮古で 100%が続いている。新規陽性者 7 日間前週比は、宮古八重山で 1 を下回る状況が続いており、沖縄本島でも昨日から 1 を下回っている。
- ✓ 患者受入医療機関の就業制限について、7/30 に 1,200 人を超える状況だったが、8/9 には 1,098 人に減っている。しかし、依然として高い水準となっている。
- ✓ 8/9 の疫学・統計解析委員会の報告によると、先週の実効再生産数は、沖縄本島及び那覇市では 1 を超えているが、宮古、八重山では 1 を下回っている。
- ✓ 保健所管区別では、宮古、八重山では減少が続いている一方、那覇市を含む南部において感染が増加している。
- ✓ 年齢別階級では、40 代、30 代で感染が広がっており、小児中心だった流行が壮年期へと拡大している一方、高齢者は緩徐に減少している。
- ✓ 宮古と八重山の離島では減少しているものの、沖縄本島では拡大が続いており、全県的に医療と介護の提供体制に深刻な影響が生じている。入院が必要な方が入院できず、そのまま介護現場で看取りを余儀なくされるなど、いわゆる医療崩壊の状態となっている。
- ✓ 今週の新規陽性者数見込みは 30,000-40,000 人となっており、入院患者数見込みは今週までに 1,100-1,250 に至る。
- ✓ コロナ感染拡大警報が出されて 1 ヶ月が経過し、医療非常事態宣言が出されて 2 週間が経過している。これらによる流行の抑止効果は限定的であり、旧盆に

よる親族交流への警戒を強く伝えなければ、高齢者を巻き込みながら再拡大し、現在の医療崩壊が長引く可能性がある。

- ✓ 商業エリアにおける 15 時時点の 7 日間移動平均について、令和 2 年 3 月と比較すると、8/5 時点で-21.4%人流が減っている。

(2) 県立病院の状況について

➤ 病院事業局より県立病院の状況について報告

- ✓ 入院患者数の内訳は、北部病院 38 名、中部病院 51 名、南部医療センター 33 名、宮古病院 10 名、八重山病院 16 名、精和病院 4 名となっている。非コロナ病床稼働率は本島地域では 90~95%、宮古・八重山地域では 76~82%となっている。
- ✓ 北部病院で 7/20 に発生したクラスターは、8/3 報告と変わらず 35 名、うち 33 名は隔離解除となっている。透析のコロナ患者が脳出血で挿管となったため HCU を閉鎖。一般病床は空いてきたが依然としてコロナ患者は多い。
- ✓ 中部病院で 7/4 に発生したクラスターは、8/3 と変わらず 26 名だが、他の病棟で新たなクラスターが発生。入院患者 14 名、職員 9 名の累計 23 名陽性で、うち 1 名が死亡。7/21 から一時救急外来を停止したため、ウォークインの患者数は減少しているが、救急搬送の患者数に変化はない。
- ✓ 南部医療センターでは、7/17 以降 ER 受診者のウォークインは以前に比べ明らかに減少。8 月になって 15 歳以下や発熱で受診する割合、準夜深夜に受診する割合はいずれも減少。県民は救急室の適正利用について協力してくれている。隣接の発熱外来には日曜日に南部地区医師会から医師、看護師の参加がありセンターの救急室の負担が減少している。
- ✓ 宮古病院では、8/9 の休業職員数は 39 名で先週よりやや減少。2 病棟制限していたが、1 病棟は再開した。救急室の受診患者は 40~50 名/日で平均よりやや

多め。多良間診療所では医師が復職し通常業務を行っている。

- ✓ 八重山地域の新規感染者の中に妊婦の陽性者が日々確認されている。コロナ関連の休業職員数は 8/9 時点で 35 名、ピーク時である 7/22 の 68 名よりは大幅に減少している。
- ✓ 精和病院で 7/22 に発生したクラスターは、8/9 に累計感染者 39 名が隔離解除となったため、終息したと判断したが、別の病棟でクラスター発生の可能性があり、現在調査中。
- ✓ 救急診療の受診者数について調査した結果、7/21 の医療非常事態宣言の発出から現在までに 5～6 割程度減少した。

(3) 宮古・八重山地域の感染状況について

- 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 新規陽性者数は一週間で 1,100 人ほど。前週比 0.97 倍となっており、今週は下げ止まっている様子。
 - ✓ 療養者数は 1460 人ほどで、島内の人口の 2.6%程度。濃厚接触者を 2 倍と仮定すると、人口の 8%程度が行動制限掛かっていると考えられる。
 - ✓ 年齢別にみると、30 代 40 代が最多。次いで 10 歳未満。60 歳以上や子どもの世代は 20%前後とほぼ横ばい。
 - ✓ 職業別にみると、依然として介護医療従事者が目立つ。
 - ✓ 陽性者の発生した施設は今週 28 施設となっており、前週の 33 施設に比べるとやや減っている。施設内療養者は 49 名。
 - ✓ 医療施設での入院がやや増加。協力医療機関の一つでおそらくクラスターが発生。その影響で増加している様子。
 - ✓ クラスター発生率は 15%。発生するところは多く出る傾向がある。対策については助言等行っているが、施設によっては感染拡大を容認しているような所や、

調査を断る所もある。保健所の権限としては感染拡大防止のための助言や指導に留まるので、もう一つ上の指定権者がなすべきことと、保健所がやることを整理してお互い協力して施設対応した方がよい。もう一步強く言えるシステムが必要。

- ✓ 保健所の体制としてはフル稼働。県、市などからの応援8名お願いしている。ファーストコンタクトは1日遅れ程度で対応できている。調査員一人あたり15人ほど架電している。療養終了の案内はSMSを利用し対応している。
- 八重山地方本部から八重山地域の感染状況等について報告。
 - ✓ ここ一週間の発生患者数は、993名で、前週比0.71と7月の後半から3週間ほど減少が続いている。
 - ✓ 年代別は、最多が30代、40代、次いで10歳未満で先週と同じ傾向。なお、90歳以上の陽性者は減少している。高齢者施設でのクラスターが終息したことが原因と考えられる。
 - ✓ 竹富町、与那国町での発生状況は、それぞれ43名、14名となっており、引き続き自宅療養してもらっている。ここ一週間で小浜島、西表島から観光客の救急搬送があった。
 - ✓ 宿泊療養施設の状況は、8/9の17時現在で入所者数は32名中24名が観光客となっている。
 - ✓ クラスターについて報告が必要なものは、高齢者施設、病院等で5か所発生しているが、それぞれ終息に向かっている。
 - ✓ 保健所の体制について、業務効率化のために陽性者への連絡は、SMSを活用しており、直接架電及び調査についてはハイリスク者、ハイリスク施設に限定している。
 - ✓ 窓口対応については、8/4から地域保健班、生活環境班で再開している。
 - ✓ 応援については、県の出先機関、県対策本部から毎日6名ほどお願いしている

状況。ハイリスクの自宅療養者に関して、健康観察の対応のために県立病院看護師 0B3 名にお願いしている。

- ✓ 保健所内での陽性者もあり、班の半数が陽性で療養中、家族の感染で濃厚接触となったため毎日抗原検査キットで確認し出勤をお願いするなど、保健所内でのやりくりで苦慮しているが、今週末の旧盆後の陽性者増加の対応に向けて対応しているところ。

(4) 空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA 等の状況【資料 8】

➤ 文化観光スポーツ部より報告

- ✓ 空港 PCR 検査プロジェクトについて、8/1 の週の受検者は 3,999 名で、前週比 -335 名。内訳は、県内在住者 3,578 名、県外在住者 421 名、陽性者は 277 名で、陽性率は 6.9%となっている。
- ✓ 那覇空港抗原検査について、受検者は 543 名で、前週とほぼ同じ人数。うち県内在住者 401 名、県外在住者 142 名、抗原検査陽性は 12 名であった。抗原検査陽性者に迅速 PCR 検査を行ったところ、10 名が陽性であった。
- ✓ TACO について、8/1 の週の電話対応件数は 97 件で、うち健康相談・問診実施数は 60 件となっている。
- ✓ RICCA について、8/5 時点の登録者数は前週より +416 人、登録施設等は前週より +11 件。

(5) BA.5 対策強化地域指定に伴う取組の拡充について【資料 9-1】

➤ 総括情報部より報告

- ✓ 「高齢者施設等における感染拡大阻止」に係る対応について、1、概況として、沖縄県では高齢者へ感染が拡大しており、高齢者・障害者施設においても 8/7 現在約 1,600 人が療養している状況であり、施設の職員を対象に、定期 PCR 検

- 査を実施しているが、高い陽性率となっている。入所系施設の場合、外部と行き来のある職員が感染を持ち込む可能性が高いため、検査の強化が必要となる。
- ✓ 高齢者施設等へのワクチン接種については、市町村が地区医師会と連携し、巡回接種を行っているが、医療従事者の手配ができないなどにより接種できない施設については、県が支援等を行う。
 - ✓ 2、目標として、検査についてはPCR検査の間隔を補うため、定期PCR検査に参加する高齢者施設、障害者施設へ、週2回、4回分の抗原定性検査キットを配布する。定期PCR検査に不参加の高齢者施設、障害者施設に対し、8月中の抗原定性検査による頻回検査を実施するため、週2回分の抗原定性検査キットを配布する。
 - ✓ ワクチンについては、巡回希望をするが、市町村において接種できない高齢者施設等を把握し、支援等を行う。
 - ✓ 3、取組計画として、1週目は、定期PCR検査参加施設への抗原定性検査キット配布をする。各市町村に対して、施設への抗原定性検査キット配布への協力を依頼し、対応可能な市町村に対して、抗原定性検査キットを発送する。
 - ✓ 対応不可能な市町村に対しては、施設へ発送を行い、施設に対して配布キットの使用目的、使用方法、陽性時対応（県陽性者登録センターへの申請方法等）の周知を行う。
 - ✓ 定期PCR検査不参加施設への抗原定性検査キット配布については、高齢者福祉介護課及び障害福祉課と連携し、不参加施設に対して、定期検査への参加呼びかけを行い、県電子申請システムにより参加を受け付ける。
 - ✓ 2週目は、参加申請のあった施設に対し、市町村役場での直接受け取りあるいは施設への発送により、キットを配布する。
 - ✓ ワクチン、施設職員と利用者へのワクチン接種の推進として、1週目は市町村を介し、支援を要する高齢者施設数の確認及び当該施設に対する支援方法の調

整（関係団体とのスキーム調整）を行う。2週目は、1週目の調整を踏まえ、たとえば、医療従事者確保の支援や、県接種チームによる施設へのワクチン接種の支援を行う。

(6) 「イベント開催に係る感染対策の徹底（案）」について【資料9-2】

➤ 総括情報部・文化観光スポーツ部より説明

- ✓ 「参加者1,000人以上」が見込まれるイベントは、感染防止安全計画の対象とし、アルコール提供を伴うイベントについては、開催時期の延期を検討頂くよう主催者側に慎重な判断を求めると変更した。しかし、感染防止安全計画を提出したイベントでも、不特定多数の参加者が見込まれ、アルコール持ち込みが予想されるイベントでは、イベント実施により、さらなる感染拡大につながる恐れがある。
- ✓ 新たな対策として、当面（8月末）までの期間、特に、感染リスクが高いと予想されるイベントについては、イベント当日、見回り確認を行い、主催者側による感染対策が適切に実施されているかどうか確認を行う。また、会場内にアルコールを持ち込ませないよう、主催者側に協力を求める。感染防止安全計画の各チェック項目を満たさないイベントは、主催者側にイベント自粛を求める。
- ✓ 目標として、感染リスクが高いと見込まれるイベントの見回り体制を構築する
- ✓ 取組計画として、イベント当日、見回り確認を行い、感染対策が適切に実施されているかどうか確認を行う。1週目は8月第2週（8/8～8/14）、2週目は8月第3週（8/15～8/21）時点のイベント実施状況を把握する。
- ✓ 各部局対応として、総括情報部から各部局に対して、8月末までのイベント開催に係る照会（イベント予定の有無、見回り確認等）を行う予定。各部局においては関係団体等へ照会を行い、8月期間中、感染リスクの高いイベント情報の把握に努め、当該イベント実施の際には、見回り確認を行う。

- ✓ 取組実績として、8/7に国際通りで開催された、「夏休み in 那覇 第28回1万人のエイサー祭り踊り隊」での巡回を文化観光スポーツ部、商工労働部で対応した。
- ✓ 感染症対策について、主催者による取組が適切に行われているか巡回確認するとともに、観客等へ呼びかけを行うこととし、具体的な呼びかけ事項として、①飛沫の抑制、②来場者間の密集回避、③イベント会場内でのアルコール類や飲食物の販売禁止の徹底、④観覧スペースへのアルコール持ち込み禁止の徹底を行った。
- ✓ 手法としては、文化観光スポーツ部、商工労働部、那覇市職員の動員から3人一組のチームを組成し、各チームはビブスを着用の上、会場の演舞場周辺を巡回し、プラカード等による呼びかけを行った。
- ✓ 医師による会場確認から次のようなアドバイスを頂いた。
- ✓ ①主催者外の酒類の販売が見受けられるため、エリアを区切った上での一定程度の規制に関して、その手法等の検討が必要ではないか。
- ✓ ②演者について、県から抗原検査キットを主催者経由で各団体へ予め配布し、陰性だった者のみの参加を促すなど取組が必要。
- ✓ ③高齢者や未就学児等に対するマスクの着用ルールを主催者側と予め調整する必要がある。
- ✓ ④イベントによっては、仮設トイレを活用することになるが、その際の手洗い場やアルコール消毒などの設置が感染症対策上、重要な取組となる。
- ✓ ⑤指笛などは、大声を発する行為と変わらないため、観客や関係者が行うことは規制すべき。
- ✓ ⑥観覧車の感染症対策に対する意識は比較的保たれている。
- ✓ ⑦お盆を控えた県民に気の緩みが生じないか気になる。親族間での会食や、「道ジュネー」後の打ち上げなどによる飲酒などを懸念。

- ✓ 今後の強化策として、「アルコール持ち込み禁止」や、「マスク着用」などについては、事前の告知に加え、会場内での提示やアナウンスを積極的に行うことが重要。
- ✓ 効果の認められた主催者による対策として、演武間に空き時間を設け、その際、打ち水を行うことで会場内の気温上昇の抑制につながった。

(7) 県外からの来訪者への呼びかけ強化に係る対応について【資料 9-3】

➤ 文化観光スポーツ部より説明

- ✓ 観光客に対する呼びかけに関しては、県 HP からの情報発信に加え、OCVB と連携し、当団体が運営する公式観光情報メディア「おきなわ物語」を活用し、「新型コロナウイルス感染症感染防止対策サイト」を起ち上げ情報発信を行ってきた。
- ✓ 今回、「沖縄県医療非常事態宣言」の発出に併せて、来県者に対して、「8月に沖縄県へ来訪される（検討している）皆様へお願い」として、次の呼びかけを実施。
 - ✓ ①旅行前の健康管理と感染防止対策の徹底
 - ✓ ②旅行前の体調不良時における旅行の延期や中止
 - ✓ ③感染に備えて処方薬の多めの持参
 - ✓ ④旅行前2週前のワクチン接種の最新状態化・来県前のPCR検査の実施
 - ✓ ⑤医療非常事態宣言発令中であることへの理解を求める など
- ✓ 情報発信の強化として、観光振興課 HP 上での感染症対策の取組の充実、「おきなわ物語」での観光客に対する「熱中症の予防策」と「熱中症時の応急措置」についての紹介記事を配信する。

(8) 「ワクチン接種の推進」に係る対応について【資料 9-4】

➤ 総括情報部より説明

- ✓ 3回目接種について、若者世代において、副反応が怖い、時間が合わない、副反応で学校や仕事を休めないなどの理由で接種が進んでいないため、ニーズに合わせた取組が必要である。また努力義務が課せられている60歳以上の方へ、重症化予防の観点から早急に接種を行う必要がある。
- ✓ 上記の課題により、3回目接種については、ワクチンに関する正しい情報の提供及び接種機会の増を目指す。4回目接種については、60歳以上への接種機会の増を目標とする。
- ✓ 市町村においては、集団接種会場における接種及び高齢者施設への巡回接種等を行い、県広域接種センターにおいては、予約なしの受付、ナイト接種等を実施し、大規模商業施設や大学等への出向接種については、これまで以上に回数を増やす。
- ✓ 広報については、あらゆる媒体を活用し、接種に前向きとなるような情報を提供する。
- ✓ 取組実績として、市町村における、集団接種会場における接種及び高齢者施設への巡回接種等の実施。県広域センターにおける、予約なしの受付、ナイト接種等の実施に加え、大規模商業施設や大学等への出向接種回数の増（4月1回、5月1回、7月3回、8月5回以上）。
- ✓ さらに、定期的に市町村の接種率を確認するとともに、目標達成に向けた課題を把握するなど、市町村と連携し目標達成のために積極的に取り組んでいる。
- ✓ 広報等については、知事コメント、新聞、ラジオ、県・市町村HPやLINEにおけるコロナ対策パーソナルサポート（RICCA）等において、ワクチンに関する正しい情報や、接種情報の案内、政府動画の掲載を行うなど、接種に前向きとなるような呼びかけや啓蒙等を行っている。

（9）質疑応答

- ✓ 来訪者への呼びかけについて、航空会社の協力を得て TACO の宣伝などのアナウンス等行う予定はあるのか。
→国交省、那覇空港ビルディング、各航空会社の協力を得ており、空港ターミナルにて事前 PCR のお願いについてのアナウンスや、機内で那覇空港の PCR 検査についての情報を流してもらっている。TACO についてなど、各航空会社からどこまで協力が得られるかは引き続き調整したい。
- ✓ 新石垣空港の PCR 検査実績について、同規模の宮古空港に比べると少ないが、空港内での案内がなく、場所がわかりにくい。数か月前まではあったが最近は見当たらないので、新石垣空港内にも PCR 検査場の案内があるとよいと思う。
→現場を確認し、導線を意識して利用者にわかりやすい形で案内できるよう対応する。
- ✓ 高齢者施設への抗原検査キット配布の対応について、参加施設と不参加施設への対応に大きな違いが見当たらない。不参加施設に対してもっと積極的にプッシュする必要があるのではないか。
→高齢者福祉介護課及び障害福祉課と連携し対応をしていく予定だが、調整が十分にできておらず、資料上で具体的な内容については記載出来ていないが、午前中の会議でも、不参加施設に直接向かい参加を呼び掛ける必要があるとの意見があり、そのような意見も踏まえ呼びかけを行う。
- ✓ 県接種チームがワクチン接種の支援を行うとのことだが、地区単位での対応となると医師の確保ができない地区については接種が進まないため、地区にこだわらない対応をお願いしたい。
→広域接種センターを医師会に委託しており、契約している医師について地区を勘案し割り振る形で対応する。必要があれば医師会を通して派遣できる医師の調整を行う。

3 議題事項

(1) 沖縄県対処方針の変更について

➤ 総括情報部より説明

- ✓ タイトルは「BA. 5 対策強化地域」指定に伴う沖縄県対処方針について とした。要請期間は令和4年8月11日（木）～8月31日（水）とする。
- ✓ 現況については、沖縄県では、変異株BA. 5への置き換わりとともに、全世界で感染が拡大し、流行が継続していること、コロナ治療を担う重点医療機関の休職者も増え続けたこと、7月24日には医療フェーズを緊急フェーズに移行し、医療機関においては予定していた一般診療の入院・手術を延期するなどして、緊急に入院が必要な患者の病床を確保することについて記載している。
- ✓ 強化地域への位置づけにより、国の支援を受けながら、感染防止対策を強化し、医療ひっ迫からの脱却に取り組んでおりますが、高齢者施設等では、8月8日時点でコロナ患者が1,381人、そのうち77人が酸素投与を受けるなど、入院が必要な高齢者が入院できない非常に厳しい状況が続いております。あなた自身やあなたの大切な人を守ることが医療と社会を守ることにつながります。と表現を変更している。
- ✓ BA. 5対策強化地域指定に伴う取組の拡充として、イベントにおける感染対策の徹底（アルコールを持ち込ませないよう）、県外からの来訪者への呼びかけ強化、ワクチン接種の推進（接種主体である市町村への助言及び連携、県による出向き接種による接種率の向上）と記載している。
- ✓ 県民の皆様へのお願いについて、不要不急の外出はできるだけ控えましょうの項目に、日頃から高齢者と接する方は、感染リスクの高い行動は控えてくださいと追記する。
- ✓ 会食や友人との交流の際は、大人数、長時間の集まりを控えるの項目では、大人数でマスクを外すイベント（旧盆等で同居以外の家族などと交流する場合を

含む)は控える、参加するイベントにアルコールを持ち込まないでくださいと追記する。

- ✓ イベントの開催について、県が求める要請を満たさない場合は、要請に沿って見直すかイベントを自粛することと記載する。
- ✓ 事業者の皆様への項目で、子どもの自宅療養や小学校等の臨時休業に対応するため、従業員が看護や世話をしやすい環境を整備すること（小学校休業等対応助成金等の活用による従業員の有給休暇制度の創設等をお願いします。）と追記する。
- ✓ 各市町村における県と連携した取組の実績の項目で、ケアマネージャーを通じて、要介護高齢者の接種状況の確認と接種の勧奨をお願いします、地元市町村で行われるイベントについて、県の基準を満たさないものは、対処方針の要請に沿って見直すか自粛を促すことを新たに記載する。

(2) 質疑応答

- ✓ ケアマネージャーを通じて、要介護高齢者の接種状況の確認と接種の勧奨をお願いしますとのことで、高齢者介護福祉課に確認したところ、ケアマネージャーが高齢者と接触する機会はあるが、接触する頻度が異なるため、ケアマネージャーに限定するよりは、介護福祉関係者を通じて勧奨とする方が接種を進められるのではないかという意見があった。
→ご指摘のとおり、ケアマネージャーに限らず、他の職種の方でも確認ができた際に勧奨してもらえの方が接種は進むと考えられるので、意見のとおり修正する。

閉 会